

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2744 号

Risk factors for alcohol consumption after starting assisted reproductive technology treatment among Japanese women: Japan-Female Employment and Mental health in Assisted reproductive technology (J-FEMA) study

不妊治療中の女性における飲酒習慣の危険因子

佐藤 真美子 (さとう まみこ)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

日本の出生率は年々低下しており、国際的に見ても極めて低い水準にある。近年、日本人女性の晩婚化・晩産化が進んでおり、生殖補助医療 (assisted reproductive technology:ART) を受ける女性が増加している。アルコールの不適切な摂取は妊娠の維持や胎児へ悪影響を与えることが知られており、妊娠を望む者は飲酒を控えることが望ましく、アルコール摂取は ART 治療の転機に悪影響を及ぼすとの報告がある。本研究の目的は、ART 治療中の女性の飲酒習慣と社会的要因の関連を明らかにすることである。

本研究は、全国の不妊治療専門の医療機関をフィールドとした『不妊治療と就労・生活の両立支援に資する研究班：J-FEMA Study (Japan-Female Employment & Mental health in ART)』として、2018年8月から12月に、全国4か所の生殖医療専門医療機関の不妊治療外来を受診中の女性患者に自記式アンケート調査を実施した。回答を得られた1,727名のうち、ART治療中の1,017名を分析対象とした。習慣的飲酒(2合/週以上と定義)の有無を従属変数に、年齢、学歴、パートナーの飲酒状況、不妊期間、体外受精の回数、出産歴、K6スコア、日本版不眠症重症度指標スコア、雇用形態、企業規模を説明変数として、多変量調整ロジスティック回帰分析を行った。本研究は、順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会により承認済(順大医倫第2019056号)である。

分析対象者のうち、習慣的飲酒者は158人(15.5%)であった。習慣的飲酒者の多変量調整オッズ比(95%信頼区間)は、35歳未満に対し35歳以上で2.27(0.99-5.21)、パートナーの飲酒習慣なしに対してありで4.26(1.98-9.16)、出産歴がありに対してなしで1.84(1.08-3.12)、非就労者に対して就労者で1.77(1.00-3.14)であった。本研究では、ART治療中の女性における習慣的飲酒は、高齢、出産歴なし、パートナーの飲酒、就労と有意に関連していた。ART治療中の女性だけでなく、そのパートナーや職場に対しても飲酒教育を奨励することは、健康的な妊娠・出産のために重要であると考えられる。